

# 糖

六年

画数 16  
筆順

砂糖 糖糖  
粉糖 糖糖  
トウ

成り立ち

家中で、白(口)の中の物を、手に持った杵(杵)で、つく形を表した「唐(杵をふりおろす時の「トウ」というかけ声を表した字)」と、「米」とを組み合わせて作った字です。

「白で米をついて作る「あめ」を表した字です。今では、あめの主成分を「糖」と言い、あめは「飴」という字に変わりました。

糖には、葡萄糖、果糖、乳糖、麦芽糖など、いろいろの種類があります。

〔唐は「かけ声」が本義の字で、「大言」の意味にも用いられ、「荒唐無稽」の語がある。地名に用いられ、ついで王朝名(国名)に用いられるようになった。〕

使い方

▽わたしは、幼いころ、金平糖が大好きでした。赤や青や黄色の、たくさんとげとげのある、かわいらしいお菓子で、見ているだけでも楽しいものでした。

▽お父さんはコーヒーが大好きです。お母さんは砂糖を入れて飲みますが、お父さんは砂糖を入れません。ぼくは一度味をみたことがあります。苦くてとても飲めませんでした。

熟語例

▽金平糖(砂糖を小さな球形に固まらせて作った菓子。表面には角がいくつかある、かわいらしい菓子です。)

▽砂糖(砂状の糖、という意味。甘蔗(俗名、砂糖きび)から取れるので、蔗糖と言います。)

▽乳糖(哺乳動物の乳の中にふくまれている糖。乳の甘味は乳糖があるからです。)

▽葡萄糖(ぶどう、その他の果実にふくまれている糖で、栄養上必要な糖です。)

▽麦芽糖(麦芽をでんぷんの中に入れて、でんぷんが糖化してできる糖です。昔は、米を使いましたが、今はいもが使われます。)

使い方

▽一年生の時の仲良しの友だちに手紙を出したら、届け先不明という印がおされてもどって来ました。よく見たら、「大田町西五丁目」の「西」が落ちていました。手紙を出す時には、よく気を付けなければいけないと思いました。

▽おとなりの山田くんはかぜで学校を休みました。それで、ぼくが欠席届けを先生に届けてやりました。

熟語例

▽届け先(物を届ける相手のこと。)

▽欠席届け(学校を休む理由を書いて先生に届ける文書のこと。)

▽欠勤届け(役所や会社を休む場合、期日や理由を文書にして届けるもの。)

▽届け出(欠席届け、欠勤届け、婚姻届け、転入届けなどの「届け」を「届け先」に届け出ること。)

▽不行き届き(行き届かないこと。不注意なこと。)

▽不届き(行き届かないこと、不注意の意味のことばですが、「すべき事をしなかったり、してはいけない事をしてしたり、「けしからぬ」ことの意味に使います。)

# 届

六年

画数 8  
筆順

戸届届

フン とどろく 届ける

成り立ち

「油つぼ」の形を表した「由(3426)」と、「人」の形を表した「戸」とを組み合わせて作った字です。「油つぼを人におくり」とどける」という意味の字で、「物を」とどける」という意味を表すのに使います。また、「物が」とどく」という意味を表すのにも使います。

〔本字は「届」で、「戸」と「出(塊)」との会意・形声字。』とどける」という用法は、わが国固有の用法である。中華民国では、わが国で「第一回……」と書く所を、「第一届……」という使い方をしている。〕